第6章　問題6-2

【問1】①：1,600

下記の①⇒⑦の順に計算すると求まる。（＊問5⇒問2⇒問1の順に解答が埋まる。）

〈資料1〉

	X1年度	
～	～	
負債の部		
流動負債	3,200	←⑥
固定負債	**1,600**	**←⑦差額**
負債合計	4,800	←⑤
純資産の部		
株主資本	3,000	←差額
評価・換算差額等	200	
純資産合計	3,200	←④
負債純資産合計	**8,000**	**←③【問2】**

③経常利益1,600÷総資本経常利益率20%〈資料3〉
④負債純資産合計8,000×自己資本比率40%〈資料3〉
⑤負債純資産合計8,000－純資産合計3,200
⑥流動資産4,400－正味運転資本1,200〈資料3〉
＊正味運転資本＝流動資産－流動負債

〈資料2〉

	X1年度	
～	～	
営業利益	**1,800**	**←①【問5】**
営業外収益	100	
営業外費用	300	
経常利益	1,600	←②差額

①売上高12,000×売上高営業利益率15%〈資料3〉

【問2】④：8,000

問1の解説参照。

【問3】④：1,300

〈資料4〉のれん800＋特許権300＋商標権100＋ソフトウェア100＝無形固定資産1,300

© 2024 会計ショップ

【問4】②：4,200

下記の①⇒⑥の順に計算すると求まる。

〈資料1〉

	X2年度	
～	～	
負債の部		
流動負債	**4,200**	**←⑥差額**
固定負債	1,200	←⑤
負債合計	5,400	←④
純資産の部		
株主資本	6,300	←②
評価・換算差額等	300	
純資産合計	6,600	←③合計
負債純資産合計	12,000	←①

①X1年度総資産8,000（＝X1年度負債純資産合計）× 総資産の対前年度比率150%〈資料4〉
②負債純資産合計12,000×株主資本の構成比率52.5%〈資料4〉
④負債純資産合計12,000－純資産合計6,600
⑤負債純資産合計12,000×固定負債の構成比率10%〈資料4〉

【問5】③：1,800

問1の解説参照。

【問6】③：3,960

〈資料2〉

		X1年度	X2年度	
売上高		12,000	14,040	←差額
売上原価	①→	8,400	10,080	
売上総利益	②差額→	3,600	**3,960**	**←③**

①X1年度売上高12,000×X1年度売上高売上原価率70%〈資料3〉
③X1年度売上総利益3,600×X2年度売上総利益の対前年度比率110%〈資料4〉

【問7】②：1,400

X1年度商品

〈資料3〉→	商品期首棚卸高 1,200	売上原価 8,400	←問6参照
〈資料3〉→	当期商品仕入高 8,600	**商品期末棚卸高 1,400**	**←差額**

© 2024 会計ショップ

【問8】①：（ア）正（イ）正

ア）正味運転資本はX1年度（1,200〈資料3〉）よりもX2年度（3,400）の方が大きい。

＊X2年度の正味運転資本3,400＝流動資産7,600（下記参照）－流動負債4,200（問4参照）

〈資料1〉

	X2年度	
資産の部		
流動資産	7,600	←差額
固定資産		
有形固定資産	2,400	←＊
無形固定資産	1,300	←問3参照
投資その他の資産	700	
固定資産合計	4,400	←合計
資産合計	12,000	←負債純資産合計（問4参照）

＊〈資料4〉土地1,000＋建物800＋車両運搬具200＋機械装置200＋建物仮勘定200

イ）流動比率はX1年度（137.5%）よりもX2年度（181.0%）の方が高いため、短期的な安全性が高くなった。

＊X1年度の流動比率137.5%＝流動資産4,400÷流動負債3,200（問1解説参照）×100

＊X2年度の流動比率181.0%＝流動資産7,600÷流動負債4,200×100

【問9】③：（ア）自己資本比率（イ）高く

ア）流動比率と自己資本比率のうち「長期的」な安全性を測る指標は自己資本比率。（流動比率は「短期的」な安全性を測る指標。）

イ）自己資本比率はX1年度（40%）よりもX2年度（55%）の方が高くなっているため、財政状態が改善されていると判断できる。

＊X1年度の自己資本比率40%＝純資産合計3,200（問1解説参照）/ 負債純資産合計8,000（問1解説参照）×100

＊X2年度の自己資本比率55%＝純資産合計6,600（問4解説参照）/ 負債純資産合計12,000（問4解説参照）×100

＊問題文に財政状態が「改善」されているとの記載があるため、各年度の自己資本比率を計算せずに、X2年度の方が「高く」なっていると判断することもできる。

© 2024 会計ショップ

【問10】②：（ア）正（イ）誤

ア）X2年度における売上高の対前年度比率（117%）は、売上総利益の対前年度比率（110%〈資料4〉）より高い。

＊売上高の対前年度比率117%＝X2年度の売上高14,040（問6解説参照）/ X1年度の売上高12,000×100

イ）X2年度における流動資産の伸び率（72.7%）は、固定資産の伸び率（22.2%）より高い。

＊流動資産の伸び率72.7% ＝（X2年度の流動資産7,600（問8解説参照）－ X1年度の流動資産4,400）/ X1年度の流動資産4,400×100

＊固定資産の伸び率22.2% ＝（X2年度の固定資産4,400（問8解説参照）－ X1年度の固定資産3,600）/ X1年度の固定資産3,600×100

＊X1年度の固定資産3,600＝X1年度の資産合計8,000（＝負債純資産合計（問1解説参照））－ X1年度の流動資産4,400

【問11】④：（ア）自己資本当期純利益率（イ）低い（ウ）悪化

ア）「株主の出資」に対する収益性を判断するための指標は自己資本当期純利益率。総資本経常利益率は「投下している資金総額」に対する収益性を判断するための指標。

イ・ウ）自己資本当期純利益率はX1年度（24.4%）よりもX2年度（10.6%）の方が低いため収益性が悪化した。

＊X1年度の自己資本当期純利益率24.4%＝当期純利益780（下記参照）/ 純資産合計3,200（問1解説参照）×100

＊X2年度の自己資本当期純利益率10.6%＝当期純利益700（下記参照）/ 純資産合計6,600（問4解説参照）×100

〈資料2〉

		X1年度	X2年度	
～		～	～	
売上総利益		3,600	3,960	←問6参照
販売費及び一般管理費		1,800	2,600	
営業利益		1,800	1,360	←差額
営業外収益		100	210	
営業外費用		300	250	
経常利益	問1解説参照→	1,600	1,320	←差額
特別利益		0	0	
特別損失		120	60	
税引前当期純利益	差額→	1,480	1,260	←差額
法人税,住民税及び事業税		600	500	
法人税等調整額		100	60	
当期純利益	差額→	780	700	←差額

© 2024 会計ショップ

【問12】④：（ア）低く（イ）悪化

ア・イ）総資本回転率はX1年度（1.50回）よりもX2年度（1.17回）の方が低くなっており、投下資本が売上高を生み出す効率が悪化したといえる。

＊X1年度の総資本回転率1.50回＝売上高12,000 / 資産合計8,000（＝負債純資産合計（問1解説参照））

＊X2年度の総資本回転率1.17回＝売上高14,040（問6解説参照）/ 資産合計12,000（問8解説参照）

【問13】④：（ア）誤（イ）誤

ア）X2年度の株価収益率（PER）51.4倍＝1株当たり株価180 / 1株当たり当期純利益3.5

＊X2年度の1株当たり当期純利益3.5＝当期純利益700（問11解説参照） / 発行済株式数200

イ）株価収益率（PER）はX1年度（38.5倍）よりもX2年度（51.4倍）の方が高い。

＊X1年度のPER38.5倍＝1株当たり株価300 / 1株当たり当期純利益7.8

＊X1年度の1株当たり当期純利益7.8＝当期純利益780（問11解説参照） / 発行済株式数100

© 2024 会計ショップ